

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700940		
法人名	医療法人社団大徳会		
事業所名	大阿蘇病院 グループホーム さくら苑		
所在地	阿蘇市一の宮町宮地5863-1		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町村受理日	平成31年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成31年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一隅を照らす 私たちは人々に灯火と明かりと輝きをもたらします」の理念のもと入所者様が安心して過ごせるよう心掛けています。当施設は病院併設のグループホームのため、病院との密な連携があり、既往歴があっても安心して入所できる。また、院内にはPT、OT、ST、管理栄養士、薬剤師など様々な職種のスタッフがいるため、何かあればすぐ相談できる環境にあり、入所様を皆で支えている。広い敷地で春は院内の桜、さくら苑横には藤棚があり、四季折々の花や、景色を楽しむことができる。静かなゆっくりとした雰囲気の中で個別ケアに重視したケアを提供している。また、職員も介護福祉士等の有資格者が多数である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

先の熊本地震で多大な被害を受けた地域のシンボリックな神社は入居者にも馴染みの場所であり、早い再建を願いながら初詣に出かけている。開所当時からおられる入居者にとって、ホームの歴史そのものが入居者の暮らしであり、運営推進会議から地域情報を収集して、懐かしいどんどこや行事では甘酒のふるまいを受け、顔なじみとなった地元衣料品店の出張販売は入居者の楽しみ事となり、訪問理容による馴染みの支援が継続されている。重度化が進む中ではあるが居室中心の生活になっても、リビングで皆と食事をすることを基本としており、ぎりぎりまでホームでの暮らしを共にしている。職員は入居者、家族の意見に耳を傾け、「苦情はチャンスである」とばかりに、様々な機会に意見の掘り起こしに努めている。離職の少ない職場環境が入居者・職員の互いの距離を縮め、安定した日々の暮らしが実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一隅を照らす」を基本理念とし月2回の朝礼で唱和することで理念の意識付け再確認し、ご利用者様本位のサービスを提供できるようにしている。また月目標として理念に基づいた具体的な目標をスタッフで考えケアに反映させている。	地域密着型事業所としての理念、「一隅を照らす」のもと、ホーム独自の基本理念を開所時からのケア指針としている。また、それら理念を更に日々の支援に具体的に反映させる意味で、職員による月目標を決定している。本年度も職員の離職はなく、入居者との馴染みの関係が継続されており、新たに入職した2名の職員とともに、法人の全体朝礼で唱和する機会や、プラン評価時に振り返る場を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事は参加できる事は区長さんに声かけしてもらっている。また地域の除草作業やどんどやへと参加している。またボランティアをしていただける様な方には面会時や知り合いを通じて声かけをしている。	法人の長年にわたる地域医療への確固たる信念は、地域密着型事業所のホームにも受け継がれ、地域を大事にしたいとの思いから交流の機会を情報収集している。地区のどんどやでは甘酒のふるまいを受け、隣接する小規模事業所での地域交流行事に参加し、地域資源を活用した紅葉見学や神社の初詣は外出の機会ともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議に民生委員、地域の方に参加していただき施設の現状報告や認知症の理解を深めていただいている。また、意見交換では情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間6回開催しており、活動、サービス内容、取り組み等を報告しそこの率直な意見、提案、要望を受けサービスの質の向上に努めている。	法人会議室を会場として2か月ごとの開催が定着している。小規模多機能ホームやデイサービスとの合同会議であり、行政や地域・家族の代表者が同席している。添付した各事業所便りから入居者の表情から普段のホームの取組を確認し、参加者の地域行事の情報提供が入居者の外出に繋がっている。本年度初回の推進会議で、「身体拘束廃止委員会」の設置について報告をおこない、身体拘束の基本姿勢を地域へ向け発信している。	会議に参加できなかった家族へは、内容を家族会や面会の折に直接伝えるようにしている。今後も引き続き家族への参加の呼びかけを期待したい。また、ホームから会議場が離れていることから、会議前などに入居者の様子を見てもらう事を検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進怪異に必ず参加していただき、運営や現場の実績等を伝える機会を設けている。市開催の研修会等に参加しケアサービスに反映している。	行政からの運営推進会議への参加により、ホームの現状を発信し、法改正に伴う疑問や相談事には電話や直接役所を訪れ、担当者の説明や助言を受けている。市の介護相談員の来所(3か月ごと)により、入居者の意向を収集している。現在ホームはグループホーム連絡協議会の世話人として活躍しており、情報交換や研修会の機会を企画している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修受講や院内研修を行っている。また、どのようなケアができるかスタッフ間でも話し合っている。利用者様の尊厳を第一に考え、自由に生活を送ってもらえるよう支援している。	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的なホーム内研修や運営推進会議での報告により、ホームの心構えや透明性を発信している。玄関ドアの開放や外出傾向にある入居者への寄り添いのケアなど、ホーム内の自由な生活を支えている。また、管理者は職員の心のケアに努め、朝の申し送りから夜間帯の大変さを共有して、労いの言葉を掛けながら、ストレスをため込まないよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や院内研修に参加し意識の向上に努め苑内での虐待や拘束が見過ごされることが無いよう、防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や院内研修に参加し知識の向上を行ない、職員をはじめご家族様等にも周知を図れるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族様、ご利用者様に分かりやすく説明し、理解、納得して頂いている。その都度、疑問点や不安がないか尋ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や半年に1回の担当者会議、面会時に、ご家族様からの意見やご要望を尋ねている。それを会議で話し合いを行っている。	面会時や家族会ではホームの情報を伝え、管理者の「苦情はチャンスである」の言葉通り入居者、家族意見は記録に残し、早めの対応を心掛けている。入居者のさりげない「散髪はまだかい？」の一言が、伸びてきた髪に訪問理容を待たれる家族のような関わりが窺える。	新年度へ向け事前に内容を検討しながら、家族アンケートを実施するのも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、会議で尋ね意欲・質の向上に繋がられるようにしている。	法人代表者の家族会や職員会議への参加により、ホームの現状を共有し、意見を仰ぎながら運営に反映している。法人の後押しにより資格取得(実践者研修)への金銭的支援や、研修体制、院内保育所の整備など働く環境を整え、職員を全体でバックアップしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、それを基に職員個々の努力、実績について話し合えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修に参加し質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡会議で他施設の方と交流し、情報交換を行い、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段のケアや会話においてご本人様がやってみてほしいことや困っていることを聴き要望としてケアに反映させている。またご家族にも面会時質問や希望が無いか尋ねている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	苑に入られるにあたりご家族の気持ちを聴き取り受け止め安心していただけるよう説明すると同時にケアへ反映をしている。面会時には日頃の情報を報告し、その際ご家族から新たな情報などを頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族より情報や希望を聴き取り関係機関と連携を取りながらご本人様の望む支援ができるよう医師・看護師・施設代表・管理者・ケアマネで話し合いどんな事が必要か見極め支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活においてご本人様がごできる事・好まれることを職員も一緒に行ない一方的な押し付けではなく、ご本人様の生活の一部となれるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時ご本人様の状況報告を行うと同時に御家族様より情報をいただき連携しながら支援にあたり、ご本人様、ご家族様の絆を途絶えさせないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様、面会に来られた友人の方などの会話において、昔大切にしていたことや場所・習慣を聴き取り、情報を得てその関係や習慣が途切れないように支援することを心がけている。	重度化が進む中であって以前のように外出の機会は少なくなっているが、馴染みの神社参拝や、どんどやなど地域行事に参加している。地元衣料品店の出張販売や訪問理容の来所は、顔なじみとなった店員とのやり取りや、自ら衣類を選ぶことで入居者の楽しみとなっている。家族や古くからの知人が面会に訪れた際には、入居者との時間をゆっくり過ごしてもらおうよう働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活が楽しく・穏やかに過ごせるように職員が間に入りながら、利用者様間の関係構築ができる環境作りを努めている。また他ユニットとの交流を大切に多くの関係作りができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会でご本人様の様子を伺いに行ったりご家族様とお話をさせていただいたりしている。またその際、相談等があった時はアドバイスや関係機関の紹介をするなど継続した関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様・ご家族様の希望や思いを聴きカンファレンスを行ない職員全員で考え、情報を共有し、よりご本人様本位の支援ができるように努めている。	職員は入居者の思いに寄り添い、天気の良い日は庭を散歩しながら思いをくみ取っている。中には自らの言葉でしたいことや欲しいものを口にされる方もおられるが、表現が難しい方には日頃の様子や生活歴から推察し、家族の意向と併せ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様・関係機関より話を伺い、今までの生活スタイルの把握を行っている。また傾聴、様子観察を通して新たな情報を見つけ出しよりご本人様らしく生活できるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、行動・様子観察を行ない一人お一人の日常生活の把握に努めている。異変がある際には母体病院と連携し早期対応行ない、安心して穏やかな生活できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の要望や必要な支援についての情報や方法など職員間で共有している。担当スタッフによるモニタリング行ない、ケアマネが評価をしケアプランの見直しを行ないよりご本人さまらしく生活できるような支援へと反映させている。	職員を入居者の担当制として計画作成担当者とともにプランの評価と今後について検討している。担当者会議には家族に案内状を送付し、日程を調節しながら半年に一度の貴重な機会であり、来所してもらうよう依頼している。個々の記録はカードックスにまとめ、プラン、ケース記録、服薬が一目でわかるように管理している。家族の面会に合わせて、軽い体操を促したり、化粧の支援や日々の洋服選びなど、一人ひとりが目的を持って生活する内容としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間と1日を通して様子観察や行動について記録を行ない、申し送りにて職員全員で情報共有し利用者様1人1人に合わせた支援へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院に隣接しているためその時々ニーズに合わせて医師・看護師・栄養士・OT・PT等専門職に相談行ない助言を戴きながら利用者様に合わせた支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に積極的に参加し、交流を深め信頼関係が保たれるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の母体病院での受診にて健康チェック行ない体調維持の管理に努めている。また入所前のかかりつけ医などがある際には継続して受診できるよう支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援する事としており、現在は隣接する母体医療機関で定期受診を受けている。緊急時も往診や受診、看護師によるサポートは家族や職員にとっても安心に繋がっている。他科受診は、家族と職員も同行するなど柔軟に応じている。口腔ケアについては、協力歯科医による訪問や毎食後の歯磨き、義歯管理を行っており、歯科医のアドバイスも受けながら、定期的に歯ブラシやスポンジ・歯間ブラシの購入を家族やホームで対応している。	職員はバイタル測定では異常がない場合も、動きや表情、食欲など気になる事があれば、早めに主治医への相談や報告を行っている。今後も、医療機関との連携や家族からの相談に応じながら入居者の健康を支えて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の健康チェックを行ない朝・夕の申し送りにて報告している。体調変化や急変があればその都度報告し指示をもらっている。また、夜間の急変時に備えたマニュアルを作成・活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には口答、書面による申し送りを行ない情報の交換を行っている。入院時はこまめな面会を行ない利用者様とコミュニケーションを取ると共にナースや相談員と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期になった際には母体病院と連携を図り、御家族様を含めて話し合いを行ないその人らしい最後が迎えられるように支援している。	重度化・終末期支援については、入居時に看取り指針をもとに、継続した医療行為が必要でなければ支援することを家族へ説明している。また、家族の意向については、その都度話しあい、本人や家族の望まれる最終を、ホーム全体で支援することを伝えている。看取り研修については、必要な時点で行っている。	今後も、本人・家族の思いを組み取りながら、日頃からホームにできる最良の支援を継続されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時・事故発生時には母体病院と共に作成したマニュアルを活用し、全職員が緊急対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時を想定した訓練を定期的を実施しスムーズな非難ができるようにしている。また、母体病院と緊急避難行うようにしており、法人全体での協力体制を築いている。	災害訓練は母体医療機関と合同で実施している。入居者全員が参加した避難訓練では、スムーズな誘導が出来ており、今後も有事の際、落ち着いた行動ができる様努めたいとしている。災害備蓄については、水をはじめ確保している内容は、職員へも周知されている。	今後は災害訓練に家族へも参加協力を呼びかけ、意見や感想などを受けることも良いと思われる。また、確保している備蓄については、リストを作成し定期的に必要なものが他にないかなど、職員間で検討されることも必要と思われる検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で1人1人個人差があらわれるのでプライバシーに配慮し言動にも注意して個々にあった声かけを心がけている。	一人ひとりに応じた声かけや誘導をはじめ、その方のこれまでの生活を尊重しながら支援している。呼称は苗字や同姓の方には下の名など、希望や反応を見ながら検討している。大切な衣類について洗濯方法の希望を出される方、立ち姿勢で洗顔に時間を費やされる方には、洗面所に水が飛んでも、職員は拭きあげながら時には椅子をサポートするなどこだわりの身だしなみやおしゃれも継続して取り組み、その方らしい時間を支援している。	居室へ入る際は、その方の部屋として在室の有無に関わらずノックの徹底を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で伝えることのできない利用者様に対して、日々のケアの中で表情、行動での反応を観察し支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のその日の状態、体調に合わせてその方が何に興味を持っておられるのか、たとえば家事手伝い、洗濯物たたみ等無理せず参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪に毎日の整容や化粧、整髪などその方の好みに合わせて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗拭きやお盆拭き等利用者様に無理せずできる範囲内で手伝っていただいている。また、個々の嚥下状態に応じ食事形態を変え提供している。	献立は法人の管理栄養士が作成したものを基本に、調理専任者を中心に食事が準備されている。地元商店から届く、豆腐をはじめとした食材や敷地内の菜園で収穫した野菜の活用は、更に楽しみな食事支援となっている。嚥下状態からキザミやトロミなど、個別で提供している。入居者が直接調理に関わる機会は殆どないが、野菜の収穫やお盆拭きなど出来ることで、食への関りを持ってもらっている。職員は1名の検食者と持参した弁当などを、入居者と一緒に摂っている。	庭先のベンチでお茶を楽しむなど、継続して取り組んでおり、今後も気候の良い時期にお茶やおやつ等の時間を楽しまれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、1日の食事カロリーや栄養を考え提供している。水分摂取表を作成し水分量を把握し、お茶ゼリー等を利用し水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、自分で難しい方はスタッフの介助のもとケアしている。義歯は毎晩、洗浄薬を使用し洗浄行っている。歯科往診にも来ていただき義歯の調整や口腔内検査も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインを出される方にはその都度の誘導を行っている。また排泄チェック表を用いて利用者様1人1人に合わせた排泄パターンを把握し、その人に合わせた声かけや誘導で失敗やおムツの使用頻度を減らしている。	入所して1週間でしっかりその方の排泄パターンを把握している。また、身体状況の変化に応じてパターンを見直し、その時々で声かけ、誘導、自立の継続が出来る様支援している。昼夜で排泄用品の組み合わせを工夫しており、2号館はトイレまでの距離が安心するため、安全面や失敗を防ぐ様、必要に応じて夜間のみポータブルトイレを使用されている。個別支援の充実は快適な排泄や家族の負担軽減にも繋がっている。100歳になられても日中は布パンツで夜間はパットの併用で過ごされる方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立作成と水分チェック表を用いたこまめな飲水を行っている。日中の体操や腹部マッサージで腸の動きを促している。また、主治医と相談をし緩下剤のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回のペースで、利用者様の体調に配慮しながら一番風呂が好まれる方など希望に沿えるよう入浴していただいている。清拭やシャワー浴などの対応もしている。	個々の体調や要望などに配慮し1対1でゆっくり会話を楽しみながら、週3回の入浴支援に努めている。冬場は脱衣場を早めに温め、心地よく着脱してもらえるようにしている。拒否の方へも職員は家族の名前など安心される声掛けを工夫し、誘導を行っている。身体状況から清拭の支援やシャワー浴が中心になられた方には、足浴の併用やあがり熱めの湯掛けを行うなど、本人の表情や心地よさを聞きながら対応している。	明るい浴室は臭気など無いう換気や掃除に努めている。窓棚に置かれたシェーバーについては、安全面から管理場所の検討が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢のため利用者様の体調や状況に合わせて、午前・午後の臥床時間を設けたりしている。就寝具は個々の持ち込みにて安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカーデックスにはさみ常に確認できるようにしている。薬の変更があった際には申し送りの徹底をして把握を行ない、与薬の際はスタッフ2名で呼称確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様1人1人にあつた楽しみや過ごし方を考え支援している。それに加え、月1回の生け花や誕生会、季節ごとの行事に参加いただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の要望を聞き、花見や紅葉見学など行っている。また個別でもご自宅周辺やその周辺での昼食などに出掛けたりしている。	法人敷地内は樹木や草花の開花など季節を楽しめる環境であり、入居者は外気浴を兼ねた散歩や散策をはじめ、菜園での収穫を楽しんでいる。また、阿蘇神社への紅葉見学や、コスモス畑に出かけたり、どんどこやなど地域行事にも参加している。戸外に出る事を億劫になられる方や遠慮がちな方へも、「庭のお地蔵さん参りに行きましょう！」の声掛けに腰をあげられるようである。また、2号館での茶会に1号館から訪問するなど、各ユニットがお隣さんとしての行き来も外出の機会となっている。	家族の協力により、帰省や美容室利用、衣類の購入に出かける方もおられる。今後も個別支援の充実や、地域、家族の協力を得ながら、入居者が戸外に出る機会を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持が難しい利用者に関しては預かり金をご家族様と相談し、合意を得ている。一緒に買い物など難しい場合は利用者様の要望に沿って購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば取り次ぎをし、話して頂いたり、要望があればこちらからテレビ電話や、手紙のやりとりなどできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が作成された絵画や生け花をテーブルや壁に飾ったりし季節感を取り入れている。共用の空間ではテレビやラジオの音が大きすぎて混乱などないようにしている。	二つのユニットは開設年が異なることから、外観やホーム内の造り、雰囲気は同じではないが、職員の工夫によって入居者がその時々で過ごしやすい環境が作られている。訪問当日は3月3日を前に、リビングにはお雛様や雛飾りのコーナーが設けられ、和やかな空間となっていた。日中はリビングで過ごされる方も多く、温度設定やテレビの音量も混乱や不快にならぬよう、入居者の状況に応じて対応している。	入居者の作品や敷地内の散歩中に摘んだ草花などをホーム内に取り入れ、季節感のある空間作りを継続していかれることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には使い慣れた家具を設置、使用して頂いている。1人になれる自由な時間が持てるようになっている。またホールでは他利用者の方達と一緒に会話などできる環境がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前より慣れ親しんだ家具や思い出のある品物、写真など持ち込んでいただき、居心地良く過ごしていただけるようしている。	我が家に居るような空間で過ごしてもらえるよう、出来る限りこれまで使用されていた物の持ち込みを依頼している。家族の写真や小物などの持ち込みもあるが、布団や収納ケースなど新しく購入される方も多いようである。衣替えや季節外の寝具の持ち帰りなど家族による支援もあるが、状況に応じてホームでも対応している。居室内は整頓を心掛け、転倒に繋がらないよう物品を配置している。陽当たりの良い居室で、面会の家族とゆっくり過ごされる光景もあり、本人に加え訪問者にとっても居心地の良い空間であることが窺い知れた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、居室に手すり等設置し自立している方、車椅子の方、共に移動や立位など安全に生活ができるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700940		
法人名	医療法人 社団大徳会		
事業所名	大阿蘇病院 グループホームさくら苑2号館		
所在地	阿蘇市一の宮町宮地5863-1		
自己評価作成日	H31年2月12日	評価結果市町村受理日	平成31年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一隅を照らす 私たちは人々に灯火と明かりと輝きをもたらします」の理念のもと入所者様が安心して過ごせるよう心掛けています。当施設は病院併設のグループホームのため、病院との密な連携があり、既往歴があっても安心して入所できる。また、院内にはPT、OT、ST、管理栄養士、薬剤師など様々な職種のスタッフがいるため、何かあればすぐ相談できる環境にあり、入所様を皆で支えている。広い敷地で春は院内の桜、さくら苑横には藤棚があり、四季折々の花や、景色を楽しむことができる。静かなゆっくりとした雰囲気の中で個別ケアに重視したケアを提供している。また、職員も介護福祉士等の有資格者が多数である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一隅を照らす」を基本理念とし、スタッフ全員が意識できるよう掲示、朝礼時に唱和している。また、理念に沿った目標をスタッフが交代で考えケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事で参加出来ることは区長さんに声かけしてもらい参加するようにしてる。(どんどや)散髪は地域の美容室より出張してもらったり、馴染みの衣料品屋も苑にきてもらい買い物している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回の推進会議に地区の副区長、民生委員等の方々に参加してもらい、施設の現状や認知症の理解について話す機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の中でサービス内容、取り組み等報告し、そこでの意見、提案、要望を受け、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のい毎回参加してもらい、運営や現場の問題などを伝える機会を設けている。分からないことがある時は連絡、相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束な内部、外部研修に参加。身体拘束についても勉強会を定期的開催し、ケアに繋げている。玄関の施錠も含め、拘束はゼロである。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と関連させ、勉強会でスタッフの意識の向上に努め、苑内で見過ごされることがないように防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や、勉強会に参加し、知識の向上を行い、周知を図れるよう努めている。実際、成年後見制度を利用している方がいらっしゃるため、その際は職員へ制度の勉強会を開催した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はしっかり時間をもらい、ご家族に分かりやすく丁寧に説明し理解、納得していただいている。その都度、分からないこと、疑問点、不安なことはないか、尋ねるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や日頃の面会時にご家族からの要望や意見があった時には速やかに対応し運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は個別で聞いたり、話し合いの中ででてきた時には意見、提案に沿えるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施。面談の中で職員からの意見等を聴き、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の実際と力量を把握し、法人内外の研修に参加してもらい、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回、GH連絡協議会等で他施設の方と交流、情報交換をし、共同での勉強会の企画参加することでサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族会や面会時の会話、ケアを通し、ご家族の要望、意向を聴き、また、本人との会話を通して要望を聴き、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に本人の様子、状況を伺い、安心して生活が送れるよう、ご家族の介護困難、家族間の問題、気持ちを受け止め、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族、関連機関と情報共有し、その方に合った支援を話し合い、サービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人ができる事や個性を活かした活動を職員も一緒に行うことで本人を知り、一方の関係ではなく、生活を共に暮らしていく関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は家族と本人の時間を大切にし、情報交換、現状報告を行っている。また、ご家族の思いを聴きながら、一緒に本人を支えていけるよう家族との絆が途切れないような配慮をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方が高齢になるにつれ馴染みの人、場所に行けないため、苑に出向いてもらうように声掛けしている。苑は場所を提供し、馴染みの人、場所が途切れないよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方同士、楽しい生活をおくれるような環境作りに配慮し、孤立しないように職員が上手に利用者間に入り、関係ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族に接する機会があれば話をしたり、面会に伺い、相談、アドバイスをを行い、関係が継続できるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送りやカンファレンスで情報を共有し入居者様の希望、意向をくみ取りその人らしい生活が送れるよう努めている。又、介護者目線での介護にならないよう注意している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や、ご家族との会話から生活環境や生活歴を把握し、職員間で情報を共有し、周知徹底に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の体調に合わせ、無理強いすることなく本人の意思を尊重したケアに努めている。毎朝のバイタルチェック、顔色より状態を観察し、本人に合わせたケアを送っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回担当者会議を本人、ご家族、ケアマネ、担当職員で話し合いを行い、現用に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状況を細かく記録に残し、申し送りや、カンファレンスで情報を共有し、毎日のケアや、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接している病院があるため、医療面、食事面、リハビリなど相談できる環境にあり、その方に合った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回の推進会議において副区長、民生委員、市役所職員の方々に参加していただき地域資源の活用、把握に協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、隣接している病院へ受診し、利用者の体調管理を把握してもらっている。家族の要望や、本人の体の状態次第で他の病院への受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に気づいた時は日中、夜間問わず、隣接する看護師へ報告、相談し、指示、助言をもらい。適切な受診、看護を受けられる。職員でも看護師を1名配置しているため、何かあればすぐ対応できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と密に連絡を取り、日々の情報等書面や口頭にて申し送る。毎日面会にも出向き状態を把握し、早期に退院出来るよう伺っている。同法人病院のため、病院職員とは顔なじみである。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に重度化、終末期の説明を行っている。母体病院と連携、家族と話し合いを行いつつ、その人らしい終末期となるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、スタッフ間で共有、把握し緊急時の対応ができるようにしている。また、看護師による、緊急時の対応についての勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定した訓練を病院と合同にて行っている。災害時用の備蓄、水なども用意し職員へも周知している。昨年末、苑を出火元とした避難訓練を行い、全利用者参加していただき、スムーズな誘導ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の訴えに耳を傾け、日々のケアの中でプライバシーに配慮し一人一人に合った声掛けを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で、表情や、行動での反応を観察し、利用者様本人が自己決定出来るよう分かりやすい言葉や表現で話している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本人の希望や、訴えを傾聴し、一人一人のその日のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等、自分で決めることができる方には自分でその日着たい服を選んでもらっている。おしゃれできる環境を整え、本人に合った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事になるようスタッフも一緒に食事を楽しめる雰囲気作りをお心掛けている。また、準備、片付けなど本人の出来る範囲で一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成、一人一人に合った食事を提供している。水分、食事量共にチェックシートに記入し、把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、実施。義歯は毎日洗浄している。歯科医による義歯調整や、口腔ケアの指導をもらい一人一人に合ったケアを行い口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を訴えられる方はその都度誘導を行っている。また、排泄チェック表を用いて個人の排泄パターンを把握し、個人に合わせた声掛けを行い、失敗やおムツの使用頻度を減らすようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立の作成。水分チェック表を用いて摂取量の少ない方についてはこまめな水分補給を促している。体操や、腹部マッサージを行い、個々については主治医と相談し緩下剤のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を設け、個人の体調や気分を配慮し、ゆっくり入浴していただけるよう支援している。入浴でできない時は清拭、足浴にて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は本人が自宅で使用されていた物を持ち込んで頂き、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。また、体調に合わせて画商時間を設け休息時はソファにてひざ掛け、クッションを用意し、くつろいでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員が確認、把握できるようにカーデックスに個人ごとに挟み、受診事に更新している。変更や、臨時薬処方時は口頭で申し送り、別途、申し送りノートへ記載し、情報を共有している。薬のセットは二人で行い、間違いがないようWチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回、カルチャー(生け花)や行事(誕生会、季節の行事)を計画し開催している。また、梅干し、干し柿作り等を教えてもらい個人の習慣を大切に、楽しみが増えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て通院や、自宅、美容室など馴染みの場所へ外出をしていただいている。又、施設内行事を計画、初詣、紅葉見学など参加していただいている。地域行事(どんどや)等にも参加させていただき、地域との交流が出来るよう、支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい利用者に関しては預かり金を家族の方と相談して預かり本人が買いたい物がある時に買えるようにしている。自分で管理できる方は本人のいい時に職員が付き添い買い物出来るよう声掛け、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば取り次ぎ、利用者からの要望があれば好きなときに電話をかけられるよう支援している。また、手紙が書ける方は、ご家族の方と文通し近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の苑での写真等を飾るようにしている。ホールには季節の花や、飾りを飾りつけ、居心地の良い空間作りに努めている。共用空間では、テレビの音量や、室温等にも日々気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人に合わせ座る位置等を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具をご家族と相談して持ち込んでもらい我が家にいるような空間で落ち着いて過ごせるような環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置。利用者の方々が移動、立位など安全に出来るよう工夫をしている。		